

## 漢字の学習指導について

研究・相談部 芳賀常夫

## はじめに

国語科における基礎的な能力を伸ばすために、文字や語句の指導は特に重要視されている。子どもたちも、国語の勉強と言われれば、まず、漢字に仮名をつけることや、書き取りや、意味調べを思いうかべるのが普通である。しかし、子どもたちは、これらの学習をめんどくさく感じることや、つまらないことと考えているのではなかろうか。また、教える側にしても、漢字は読みとりを困難にしているやっかいなもの、排除したいものにとらえる傾向があるのではないだろうか。

一方では、漢字を習得させるためにかなりの時間がとられ、ことがらの読みとりや、要旨・主題のは握りや、描写や叙述のすぐれた箇所を味わうことなどにかかる時間の不足をなげくことも多い。

それで、漢字を効果的に指導するにはどうすればよいかについて、低学年を主として取りあげ考察してみたい。

## 1. 実態に応じて指導すること

漢字の指導において、ひとりひとりの習得の実態に応じて指導をくふうすることが大切である。つぎのような事項については握っておきたい。

- 習得している漢字（音・訓よみ、書き取り）
- 教材の新出漢字（よみ）
- 前学年までの提出漢字の定着（よみ・書き取り）
- 漢字の使用（短文の中で、作文の中で）
- 漢字についての知識（部首・画数・筆順・構成など）

調査結果については、誤答傾向を類型化し、それに即して、指導をくふうしていきたいものである。

ここで、子どもの作文の漢字使用状態について考えてみる。

三年生になって（女子） 4月上旬

わたしたちのえんそくの日雨がふってしまいました。せっかくたのしみにしてたのとおもいました。だけど、せんせい「こんどのえんそくは、6月1日」といいました。わたしはがっかりしました。

けれどその日かそのつぎの日かわからないんだ、せんせいが、おてがみをくばった。わたしはすぐにみても、うんどうかいが5月15日にきまったことがかいてあった。わたしはうれしくてこのころの中でばんざいとさげんだ。

うちにかえったらおもった。うんどうかいのつぎがえんそく、とてもうれしくてうちの中で「ばんざーあい。」とさげんでしまった。そのときおおかあさんに「こら。」し

ずかにあそびなさいとゆわれた。（以下略）

この文章は「三年生になって考えていること」について書かせたものである。5分ほど話し合いをして、40分程度で書きあげたものである。字数は620であり、漢字は23字使用している。3.8%の使用率である。これを文化庁がまとめた全国調査の数値とくらべてみる。

(昭.47)

表1 漢字使用率〔都市〕  
(総字数を100として)

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
使用率	0.1	2.0	4.3	7.9	11.0	13.1

この学級の平均使用率は4.1%である。この子は学級の平均よりは少し下であるが、表とくらべてみる

と、4月始めであるから、普通の使用率であると言える。

しかし、「楽、思、先生、手紙、心」は2年までに学習した漢字である。しかも生活語として使用度も高いものであり、使用してもよいと考えられる。もっとも、この作文は書かせたままのものであり、推考させることによって、訂正され、漢字もふえるものと思われるが、書きつづる最初の段階で語として漢字を思いうかべ使用できるような指導法がくふうされなければならない。

なお、文章表現を通しての漢字指導については、書かせるねらいを損うことのないようにしなければならない。漢字で表記することを意識しすぎて、書きたいことをせいっぱい書けないようでは困るわけである。読みなおしの段階で、漢字に直せるものは直すようにすべきであろう。

## 2. 教科書教材（漢字に関するもの）の指導についての留意点

## (1) 1年

- 1学年配当漢字のうち、70字ぐらいの漢字を読み、その大体を書くこと。
- 文の中で漢字を適切に使うこと。

上記の二つが漢字に関する指導事項である。

## &lt;1年の漢字教材&gt;

## (一) えと かんじ

ここでは「山 木 川 水 日 口 手 田」の8字を取りあげている。絵と篆書と楷書とを結びつけ、漢字の成り立ちをわからせようとするものである。興味を持たせ、身近かなことから関連させて取り扱うことが大切である。また、音、形、と共に一字で意味を表すという特性のあることを気づかせることである。

更に、これらの漢字は、字母としての働きも大きいので